

タワーズワトソン・インベストメント・サービス株式会社
大海 太郎

第4回「確定給付企業年金の魅力」

「確定給付企業年金の魅力」

金融庁の「金融審議会 市場ワーキング・グループ報告書」（以下、報告書）において、老後の平均的な資産不足額が1,300万円から2,000万円になると記載されたことが話題となっている。不足額の大きさはライフスタイル等によって大きく異なることが説明されているが、「2,000万円」という数字の大きさが注目され、メディアでは政府や公的年金に対する批判も見られた。

報告書では、不足額の大きさだけでなく、それを補うための資産形成の重要性が主張されており、資産形成を支援する制度として、つみたてNISAが挙げられている。つみたてNISAとは、長期投資を支援するために、年間40万円までの積立投資が最長20年間非課税になる制度である。

出版企業年金基金が実施する確定給付企業年金（以下、DB）も老後の資産形成を支援する制度の1つであるが、つみたてNISAとの違いは何であろうか？ 本稿では資産運用の観点に絞って考えてみる。

1つ目の違いは、運用主体である。つみたてNISAでは、加入者が資産を自ら運用するのに対して、DBでは、加入者等の資産を一括し、基金が運用を行う。ただし、基金に必ずしも運用の専門家が在籍しているわけではないため、弊社のような運用コンサルタントを採用することも一般に行われている。

2つ目は、資産運用の結果が加入者の資産に与える影響の違いである。つみたてNISAでは、運用結果が好調であれば加入者の資産額は増加するが、不調であれば資産額は減少する。これに対してDBでは、運用結果が好調であっても給付額が増えることはないが、不調でも、原則として給付額が減少することはない。

現在、金利が歴史的な低水準であることに加えて、弊社では株式も割高な水準にあると考えており、運用環境は厳しい。このような状況では、基金が資産運用を行い、加入者が資産運用結果の影響を直接受けることのないDBは、加入者にとって魅力的な制度と言えるのではないだろうか。